バイオハザード～SleepStory～

車エビ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バイオハザード～ＳｌｅｅｐＳｔｏｒｙ～

【Ｎコード】
Ｎ０５０１Ｎ

【作者名】
車エビ

【あらすじ】
バイオハザードの歴史に隠されていた、ある日記にかかれていた８人の物語
眠っていた物語が動き出す……
オリジナルストーリーです！

プロローグ（前書き）

駄文ですが、読んでください！

ではどうぞ！

プロローグ

？「そっちの研究資料をこっちに回せ」

？「わかりました」

俺は、いつもどうり【ある研究】の資料を読み漁っていた。

？「はい、これ、【レオンレポート】と、最近あったやつから逃げ切った人たちの【日記】」

？「ありがとう」

俺は、自分の妻の京菜（けいな）にお礼をいい、お茶をすすった。

なかなかうまい。

京菜（以下京）「…アラン、この日記を書いていた人たちって日本人だって」

アラン（以下ア）「気の毒に…」

そう言って俺は、まずその日記を開いたが…

ア「すまない、まだ日本語は、覚えきってないんだ」

俺はここ日本に来てからまだ9ヵ月、まだ漢字を覚えていなく、読めない。

京「わかったわ、私が読むから、これを読み終えたら、レオンレポートは本部に、この日記は本人達に送るからね」

彼女に日記を渡す。

そして、１ページを開いた。

プロローグ（後書き）

この人物二人は、あまりストーリーに関係ありません

もしかしたらまた出るかもしれない

第1章　戦士達？英雄達？（前書き）

この日記は、俺達が経験したことを語り継ぎ、二度とこんなことが起きないように、書き上げました。

もしかしたら、『俺』はもういないかもしれませんが、この『眠った物語』をどうか…どうか…語り継いでください……

第1章　戦士達？英雄達？

青い空が行き渡るが嫌な予感も行き渡るここ、アメリカのとある街、こんなどんよりした感じとは、対照的な感じを放つ、人物達がいた。

？「モスバーガー行こ」

？「いや、アメリカでハンバーガーと言ったらマックだ！」

「モスバーガー行こ」

こう言っているのは、中村　拓也（なかむらたくや）

拓也は力があり、少し静かである。

ちなみに、柔道、空手、少林寺、剣道、弓道はすべて二段である。

（ちなみに書道は5段）

「いや、アメリカでハンバーガーと言ったらマックだ！」

こう言っているのは、食べ物に関すると熱くなる　夏目　晃（なつめこう）

晃は、実はプロ級の料理の腕を持っている。

「「じゃあ、マック行こうか」」

このハモった二人は、高尾　真司（たかおしんじ）と山下　綾（やましたりょう）で、二人とも銃の腕はピカイチ（アメリカでの試射）真司は、プロのハッカーで、ファイアウォールを5分でハックできる化け物。

走り屋をやっていて、かなり運転がうまい。

綾は、手先が器用で、簡単なもので、トラップが作れるし、仕掛けるのも神業、危険物類の資格はすべて持っている。

まあ、この日本人集団は、近くのマックに入っていった。

この後どうなるかもまだしらないで…

真司「じゃあ…まず俺は…チーズバー晃「俺ビックマック！！」

真司の言葉を遮るように晃が言う、

綾「これか！これか！こっちの方がいいかなー、これもいいな～」

拓也「……」

ふざけてメニューを指差し、マックのマスコットキャラクターのまねをする綾を無視して拓也はメニューを見る、

しかし、いつも冷静な拓也だから気付いた、こんな事を、

拓也「ん？なんか人が俺たち以外いなくないか？」

真司「そんなわけないよ拓也…ってほんとだ…」

晃「なにか起きてるのか？」

そう、約2名テンションが高すぎて気がついてないようだったが、
このマックは無人状態だった。
不思議に思い、晃はカウンターを見に行く、綾は、いつものみんな
が楽しむ感じではなく、昔あったサバイバル訓練（彼らの高校の時
の卒業試験のようなもの）の時の用に、辺りを警戒している。
そしてこの４人は見つけた、店の外にいた、異形の存在を……

第1章　戦士達？英雄達？（後書き）

どうでしたか？

感想、誤字脱字などお願いします！

登録してない方々も感想をください！

おつりと武器（前書き）

さてさて…

やっと時間が空きました…

なので投稿投稿！！

ではどうぞ！

おつりと武器

？「ァァァァ！」

晃&綾「は？」

真&拓「！？」

全員が謎の声に反応して外を見たとき、綾と晃以外の2人は息をのんだ

それは…

映画にしか出ないはずのゾンビがマックのドアをうめき声を上げながら叩いていたからである

全員「ヤバい！」

全員がそう言うと拓也と真司は全員の荷物が入った鞄を持ち、そのまま厨房へ

綾と晃はカウンター内へと走り店員のマネをする

晃「いや～あんなメイクしたハリウッドの人が来るとはな～」

綾「そうだな！メイクしたまま来るなんて…さすがアメリカ！」

そんなことを話している内にゾンビが入ってきた

晃&綾「いらっしゃいませ！」

そして店員のように言葉をかける

真「おい！！そいつは本物だぞ！！目を見ろ！！」

真司は厨房の受け渡し口から2人を見た瞬間言った

晃&綾「え…！！」

2人はゾンビの方を見た…目に生気がない

晃&綾「ぎ、ギャァース！！」

ゾンビが近づき、カウンターにすがりつく

しかし、2人ともギリギリまで後ろに下がったため、ギリギリ手が届かない

綾「やべぇ！おおおい！真司！ドドナ〇ドの！！靴は何センチぃぃぃ！！」

真「4個分くらいかな！！」

真司はゾンビに向かって何かを4つ投げた

ハンバーガーである

虚しくもハンバーガーは途中で空中分解してしまったが、ゾンビに分裂したハンバーガーの3分の2が当たり、ゾンビの注意がそれた

その隙を綾と晃は見逃さなかった

2人でレジをつかみ

晃&綾「おつりは！！」

そして持ち上げ

晃&綾「いりませんよぉぉ！！」

カウンターにすがりつくゾンビの頭に振り落とした

グシャ！！

そんな音と共にゾンビの頭は砕け散った

その後、入り口にバリケードを作り、2人は厨房へ入った

おつりと武器（後書き）

次回は、後の４人についてか、この４人の詳しいプロフィールを書きます、きっと、たぶん…

全員集まるのは、もうすぐだと思います

次回もよろしくお願いします

プロフィール？

中村　拓也　（ナカムラ　タクヤ）
身長１８３
２１歳
車の免許あり
柔道熟練者
空手熟練者
弓道経験者
剣道経験者
少林寺熟練者
許嫁あり

見た目でかくて怖いが、中身は優しく冷静、許嫁の幼なじみがいる。
接近戦最強肉弾戦車！

夏目　晃　（ナツメ　コウ）
身長１８２
２１歳
弓道熟練者
四つ星コック（並の腕がある）
医療知識あり
彼女なし

実は弓道熟練者で他にボウガンやクロスボウなどが扱える。料理がすごくうまい、少しの材料でうまい物が作れる。

たのもしい料理人！

高尾　真司　（タカオ　シンジ）
身長１７６
２１歳
クレー射撃経験者
車の免許あり
峠制覇者
彼女あり

プロの走り屋で、足が速い、フットワークがすごい人、彼女がいる。
ポジョニングバッチリの援護兵！

山下　綾　（ヤマシタ　リョウ）
身長１７８
２１歳
車の免許
抜刀術熟練者
クレー射撃経験者
エアライフル熟練者
危険物取扱可能
医療知識豊富
オリジナルトラップ、アイテム制作可能
オリジナルカスタム可能
好意を向けられている人あり（ちなみに本人はなぜだ～！！と言っている）

実は抜刀術熟練者、射撃はピカイチ、爆発物やトラップ、また治療など幅広くこなす
トラップ使いの狙撃手

プロフィール？（後書き）

ちなみに晃と真司以外はウイルスに免疫がない

武装開始！

晃「で、どうする？」

厨房の鍵を閉めながら晃は今後どうするかを決めるため真司に話しかけた。

真司「まず、脱出するため、武器を集める、…あんなもんと素手で戦えるのは拓也ぐらいだ」

綾「裏口にはなんもいなかったぞ、脱出は出来る」

綾が鉄パイプを持って裏口から帰ってきた

真司「そうか、じゃあ話を進めるぞ」

そう言って真司は横に置いてあったフライパンを手に取った

真司「俺はコイツで行く、包丁はほとんど持ってかれていてなかったから代用武器だ」

フライパンを一振りする

解説

フライパンは振りが速い武器である、しかもクリティカルヒットを出すと大ダメージを与えられる、しかしながら間合いがせまい

綾「そうか…なんか猫とネズミの追いかけっこのアニメ思い出した…あ、ちなみに俺はこの長～い鉄パイプだ」

解説

鉄パイプは不良やチンピラもよく使うお手頃武器、今回は４メートル近くあるので威力は絶大、しかし大振りになるので１対多数ではかなり不利

ごそごそ…ごそごそ

晃「拓也？なに作ってんだ」

さっきからなにかに励んでいる拓也は急に出来た！と言った後に話した

拓也「あ…あぁ、槍を作っていたんだ」

そう言って槍を持ち上げる

解説

槍、約３メートルの間合いを持ち、相手を突く武器、今回は、包丁とモップの棒と粘着テープガムテープで作られた槍である、威力も間合いもまあまあ、これと言った弱点はないが、手製のため強度に問題がある

真司「よし行くぞ！」
全員「おぉ！」
そして走り出し…
裏口の扉を全員で蹴り開けた

バン！！↑扉が開く音
ドゴ！！↑何かがぶつかり吹き飛ぶ音

全員「あ…」
そこには、吹き飛んだゾンビとこちらを向いた3体のゾンビがいた
綾「集まったのか…てか、1体ご愁傷様」
綾がゾンビに向かって走り出した
真司「よし！俺も！！」
それに真司が続く
拓也「いくぞ！」
そして残った1体に拓也も向かって走り出す

晃「あ…あれ、武器見つけるの忘れた！！あ、鉄パイプみっけ！！」

そして最後に遅れて晃が戦いの中に駆け寄る

彼らの脱出が始まった

武装開始！（後書き）

晃の鉄パイプは2メートル弱のやつです

ちなみに現在装備

拓也
・槍
・リュック大（布団＆枕つき）

晃
・鉄パイプ
・キャリーバック（背負えるタイプ）

真司
・フライパン
・リュック中

綾
・長い鉄パイプ
・リュック中（布団＆枕つき）

以上です

居なくなった”1人“

先ほどの戦闘で勝利を収めた４人は今…

全員「うおぉおおぉぉ！！」

多数のゾンビに追われて逃げている

真司「腐っても走れんのかよぉぉ！」

ヒュン！
ドスッ

晃「しかもなんかクロスボウ使ってる奴まで居るぅぅぅぅぅ！！」

綾「走れ走れ走れぇぇぇぇ！！」

拓也「黙って走れ！！」

とそれぞれ叫ぶ

晃「あ！！あんな所にユーフォーが！！」

綾「んなもん聞くわけ！！」

クロスボウを握ったゾンビがそちらを向く

綾&真「効くんかい！！」

しかし、その他は追いかけてくる

綾「あ！あの店シャッターが閉まってる！！」

綾が指差す方向には、かなり遠いが、それでもシャッターが閉まっている店があった

真司「綾！足止めするから！」

綾「よし！じゃあ、行ってくる！！」

そう言うと拓也と晃と綾はスピードを上げ、逆に真司はスピードを下げ、武器を振り回した

拓也「よし！！着いた！」

最初にたどり着いたのは拓也だった、そしてシャッターを開ける

すると

晃「アイキャンフラ～イ！！」

バン！！

晃が中へ飛び込んだが、すぐに扉があった

それを確認すると真司はかなりのスピードを上げ、ゾンビ達を追い抜いてきた

後１００メートル

綾はあることにきがつき、１０メートルほどのところで応戦準備をしていた

綾「真司！富○スピードウェイの直線コースを走るスポーツカーぐらいで走れ！！」

もちろん真司は

真司「無～～理～～！！」

と言いながらもスピードを上げる

彼が通り過ぎたあと、自分からあと１０メートルのところを走っている一番速いゾンビに狙いをつけ、鉄パイプを強く握りしめた

その頃シャッター付近では、扉を開けて待っている晃と拓也がいた

そこへ真司が到着

その時には綾はこちらに走っていた

拓也「おい！早くこい！」

と叫ぶ、安全な場所を見つけたからか、少し笑いながら言っている

綾「わかったぁ！俺が閉めるから早く入れ！！」

そう言いながら走る

そして彼らは中へと入っていった

ガッシャン！！

勢いよくシャッターが閉じられた

晃「おい！シャッターを閉める時は部屋を明るくして離れて…」

晃がボケようと入り口向かうと、

シャッターは閉まっていたが…

彼はどこにもいなかった

晃「あれ?暗いからすれ違ったか?拓也、電気つけて」

彼がいった直後電気がつく

するとここが一度来たことがある日本料理が食べれるとこだと分かった

そして、座敷の隅の机の近くでうずくまって横になっている人を見つけた

真司「おい、綾なに隠れてんだ?」

真司が近づこうとしたら

?「うーん…もう食べられないよ…」

その人物から女の子の声がした

拓也「綾じゃ……ない!!」

その声に彼女が飛び起きたが…

?「あうぅ〜い、痛いよ〜」

運悪く机に頭をぶつけたようだ

しかしそんな彼女を無視して晃はシャッターを開けようと入り口へ向かおうとしたが拓也に止められた

晃「なにするん

拓也「今開けたら全員死ぬ！！しかも外は暗くなっている！探したくとも探せないんだ！！」

拓也は晃の言葉を遮るように言うと全員黙り込んでしまった

？「あの～」

黙談を破ったのは謎の女の子だった

？「私はなにをすれば…」

真司「…あぁ、まずは自己紹介だな…」

3人はそれぞれ自分の名前と年齢を言った

？「私は、佐野　雪（サノユキ）です…あと年齢は同じです…」

彼女、雪は気まずそうに話した

そのあとも会話は続かず、全員明日に備え、寝てしまった

山下　綾

仲間を助けるため囮となり行方不明

居なくなった”1人“（後書き）

説明します！！

陸斗「いきなりかよ」

あんた作品違うだろ！

陸斗「気にするな」

真司「そうそう」

まあ、ひとまず無視して

綾が残った理由は、ゾンビ達の中に、一体速いのが居たのは覚えていますか？

はい！後に綾にやられたんですが、そいつが居ると、自分が中からシャッターを閉める時に確実に邪魔をして、最後にはエンド！！になってしまうので、残り囮になって、外側から、シャッターを閉めたんです…

陸斗「分かりましたか？」

真司「ではそろそろお時間となりましたので…」

全員「また会う日まで！」

あ、あと感想待ってまーす！

捜索　上（前書き）

かな～～～～り遅れて申し訳ありません！
それでも読みに来てくれていた方々、ありがとうございます！
ではどうぞ！

捜索　上

あの事件の翌日、雪以外の3人は朝早くから外へ出ていた

全員「……」

とても気まずい雰囲気で…

この3人が外に出たのは理由があった
3人はどうしても“割り切れない”からだった

しかし、拠点付近をくまなく捜しても綾どころか綾の私物すら見つからない
時間ばかりが過ぎて行くだけだったが…

拓真「おい！！いたぞ！！」

拓真の示す方を見るとドアが取れかけている家があった

ギリギリこの家付近からでは見えない位置にある

2人が拓真の元へ近づくと

家の奥の扉に寄りかかるように綾がグッタリと座っていた

奴らの攻撃を受けたであろう、傷ができ、赤く染まった左手にはなぜか刀の鞘が握られており、刀は右手側の床に転がっていた

しかし鞘を握っている左手には力が入っていなかった

真司「嘘だろ…」

晃「はは…綾が…死ぬわけないだろ！」

拓真「……くっ…」

彼らは呆然と立ち尽くしていた…

捜索　下

彼らはしばらく無気力に立っていたが、時間は、現実はそれを許さない

『ア゛ア゛ア゛ア゛！！』

全員『！！！！！』

家の入り口から白衣を着たゾンビが2体入ってきた

彼らはゾンビに対抗しようと武器を構えるその刹那

彼らの間を何かが風を切ってすり抜けた

ドスッ

一体のゾンビが地にひれ伏す

真「な、なんだ！？」

ヒュッ

ドスッ

もう一体も倒れる

彼らが後ろを振り向くと…

？「あんまり油断してるとやられてしまうぞ？真司」

？2「え…晃…さん？」

真&晃「はいぃ？」

約2名に見知った顔が…

～しばらくして～

拓「つまり、あんたら2人はここに隠れていたってことか？」

？「そうだ、しかし私はさっき言っただろう？あんたではない、策矢　美月（サクヤミツキ）といっているだろうそして」

となりの？2を指さして

美「隣に居るのが明暮　雪茄（アケクレセツナ）だ」

茄「は…初めまして…そして久しぶりです…こ、晃さん」

雪茄は拓也と真司にぺこりとお辞儀をしたあと晃に向き合った

綾「なんだ？知り合いか晃？」

晃「あ、あぁ中学の頃の友人だよ」

そう言って晃は頬をかいた

真「しかし、綾はなんで…」

綾「なんでって？」

真「なんで死んじまったんd…って生きてる！」

拓也「気づかなかったのか…」

晃「彼女たちが現れた時欠伸してたぞ…」

2人は呆れた顔で言った

綾「まぁ、何はともあれ生きてんだからいいじゃん」

真司「そうだな、まぁひとまず、お互いの情報交換と現状報告を拠

点の料理店で話し合おう」

そう言って彼らはお互いの無事を確認して笑い話をしながら拠点へと帰った

空になった注射器に気づかずに…

プロフィール？

佐野　雪（サノユキ）
免許取得
手作が器用
ある人にアタック中

背の低いことがコンプレックスの小柄な子
ある人にアタックしているのだが…
美月の“作戦”に乗ってこちらに来た

元気なチャレンジャー！

明暮　雪茄（アケクレセツナ）

取得免許なし
料理（科学兵器）
想い人あり

実は、晃のことを中学の頃から思い続けている子
（その後、晃は真司達がいる中学へ転校）
料理は……壊滅的
雪と同じく”作戦“に乗ってこちらに
弱気な頑張り屋！

策矢　美月（サクヤミツキ）

免許取得
合気道経験者
彼氏あり

プロ級の運転技術を持つ
ほぼ冷静でいられるが、恐がり出すと止まらない
真司の彼女
真司達が外国に行く時に会った2人を応援するためある“作戦”を
立てる

プロフィール？（後書き）

次回はようやく現代武器が出せるやもしれません

感想、ご指導お願いします

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0501n/

バイオハザード～SleepStory～

2011年10月7日00時42分発行